

# 地学オリンピック支援委員会

## 第17 回議事録

2022 年3 月26 日

委員長 田中 義洋

期 日：2022 年3 月26 日（土）10:00 – 12:00

形 態：オンライン

出席者：川村、小泉、芝川、高嶋、田中、久田、渡来（出席者 7 名で委員会は成立）

### 議 題

1. 令和3 年度の活動報告
2. 第14 回日本地学オリンピック予選問題の評価
3. 令和4 年度の活動方針の確認など

### 詳 細

1. 令和3 年度の活動報告

(1) 委員会を1 度開催（第16 回：2021 年3 月20 日）

(2) 第13 回日本地学オリンピック予選の問題検討

第16 回委員会およびその後のメーリングリストでの検討を経て、5 月に地学オリンピック日本委員会に「第13 回日本地学オリンピック予選 試験問題に関する講評」を提出した。

(3) 第14 回日本地学オリンピック本選および地学オリンピック関連イベントなどの報告

川村委員から、第14 回については、1 月の二次予選から会場を設けての実施ができており、3 月13～15 日には茨城県つくば市において本選および日本代表選抜が行われ、国際大会代表者4 名が決まったことが報告された。夏に実施予定の国際大会は、イタリアがホスト国を務め、オンラインで開催予定とのこと。

久田委員からは三重県の伊勢高校における地学オリンピック対策講座の報告があった。

2. 第14 回日本地学オリンピック予選問題の評価

芝川委員から、一次予選および二次予選の問題に関する詳細な分析資料（問題数・配点や試験方式などの概要、問題に関する講評、出題問題と5 社の地学基礎教科書との対比表）の説明が行われた。一次予選では選択肢の数が統一されるなど書式が改善されていること、問題についても全体として良く練られた良問であること、総合の問題では教科書に書かれてあることだけでなく、時事に精通していることも必要となっていることなどが報告された。

これをもとに各委員が感想や意見を出し合い、予選問題の特徴について議論を行った。一次予選は、ほぼ地学基礎の教科書に準拠した知識主体の問題で、参加者にとって手ごたえが感じられる知識の定着度・理解度を測る試験となっている。二次予選問題は、地学基礎教科書で発展とされている部分や地学の教科書の内容も含み、計算力や思考力も求められる問題も含み、選抜試験としての特徴を備えた試験となっていることなどを確認した。

今後1 か月程度、ML で議論を継続し、5 月上旬をめどに地学オリンピック日本委員会に講評を提出することとした。

3. 令和4年度の活動方針の確認など

次期についても、第15回日本地学オリンピックの広報を第129回学術大会（東京・早稲田大会）で行うことおよび同大会の予選問題を分析し、講評を作成することとした。

また、各委員の4月からの所属先の確認を行った。

以上